



News Letter

No.130

The Iida City Institute
of Historical Research

2024年6月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0803

長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iih@city.iida.nagano.jp



飯田市歴史研究所2024年度研究計画

歴史研究所の調査研究活動は、複数の研究員が研究組織を構成して諸課題に取り組む基礎共同研究と、各研究員が個々の課題に取り組む基礎研究によって進められています。2024年度は、以下の体制で調査研究を行います。

1. 基礎共同研究（名前は代表者）

基盤調査：日常的・永続的な調査・研究事業		単位地域研究：市域の自治区域（旧町村）を対象に取り組む総合的な調査・研究	
史料所在状況調査	羽田 真也	飯田・上飯田	多和田 雅保
史料現状記録調査	羽田 真也	座光寺	羽田 真也
オーラルヒストリー調査	伊藤 悠	川路	羽田 真也
歴史的建造物調査	岩田 会津	三穂	前澤 健
歴史的公文書調査	伊藤 悠、羽田 真也	松尾	伊藤 悠
		南信濃	岩田 会津
課題研究：数年間をかけて特定のテーマに取り組む研究			
地方小都市の近代化過程における学校を中核とした文化的ネットワーク構築			多和田 真理子
山里の分節的把握 —阿智村清内路を素材として—			坂本 広徳
南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究			吉田 ゆり子

2. 基礎研究

所長	伊坪 達郎	飯田・下伊那近代の主なあゆみをまとめる
顧問研究員	加藤 陽子	森本州平日記を読む
	田島 公	国指定史跡・恒川官衙遺跡の保存・活用を促進するための地方官衙（「評衙」「郡衙」）と古代寺院（「評寺」「郡寺」「定額寺」）の研究
	多和田 雅保	近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究
	多和田 真理子	小学校の設置運営と地域の関わり —日誌類の分析を中心に—
	安岡 健一	飯田下伊那の農協における諸活動Ⅲ
	吉田 ゆり子	山里に生きた人々の意識 —身分と職分に注目して—
研究員	伊藤 悠	近現代飯田・下伊那における地域経済と資源
	岩田 会津	明治期の地図・地籍史料に基づく地域景観の復元
	羽田 真也	近世信州伊那地域における村社会の構造 —座光寺村を素材として— 近世大平の社会構造と大平街道をめぐる流通
特任研究員	竹村 雄次	幕末明治大正期、下伊那の文化的活動とその展開
	前澤 健	樽木役の負担に関わる諸問題2
調査研究員	太田 仙一	飯田・下伊那の経済・経営史的研究
	竹ノ内 雅人	飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究
	田中 雅孝	養蚕地帯の地域社会構造と主体形成
	千葉 拓真	近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究
	原 英章	興亜教育の実態と満蒙開拓青少年義勇軍の送出 —下伊那を中心に—
	福村 任生	伊那街道における歴史的景観の持続再生に向けた総合的研究
	本島 和人	満洲移民送出及び引揚げに至る下伊那の社会と経済 満洲移民参加者の個人日記の翻刻と解説
市民研究員	栗谷 真寿美	青年会及び、青年運動の研究
	上河内 陽子	飯田下伊那の戦時を読み解く —地域の軍事郵便資料調査をととして—
	坂本 広徳	近世清内路の社会構造
	清水 迪夫	戦前の下伊那労働運動史
	壬生 雅穂	ミチューリン会で菊池幸子が作り出した「場」

学校を退職して、平成 23 年 (2011)4 月から平成 28 年 (2016)3 月まで 5 年間飯田市歴史研究所で調査研究員としてお世話になりました。それから令和 5 年 (2023)3 月まで 7 年間松川町資料館にお世話になりました。その間『下伊那史 第九巻』編纂委員長にも任命され下伊那教育会館で『下伊那史 第九巻』作成も進めてきています。そして昨年令和 5 年 4 月 1 日から飯田市歴史研究所に戻ってきて、特任研究員として 1 年お世話になり、6 年度から歴史研究所所長に任命されました。



歴史研究所は昨年、開所 20 周年を迎えました。私が歴史研究所を 1 回退職してからも、研究員や特任研究員、さらに顧問研究員・調査研究員・市民研究員・調査研究補助員、それに歴史研究所総務係の着実な活動により維持されてきました。今年からこの先に向かって、どのように事業や活動を進めていくことがよいか、じっくり考え合うとともに話し合い継続にふさわしい姿勢を作成していけたら良いと思っています。

飯田市歴史研究所や関連施設には多くの文書史料が保管されています。①飯田市役所の保管期限がきた市行政記録文書 ②いくつかの支所の行政記録文書 ③市内小学校の学校記録文書 ④諸団体・諸施設の記録文書 ⑤個人の家からの寄贈文書・寄託文書 ⑥諸史料の写真記録などです。個人の家はもちろん公共施設などでも、今後の保管に困っている所が増加しています。これをどうするか、美術博物館・中央図書館などにある史料類とのかかわりも考えていかなくてはなりません。また、史料をただ保管するだけでなく地域の今後の方向を考えるためや個人が調べて自家や地域にどう生かしていくか考えるため、活用できるようにしなくてはなりません。また保管の施設をどのようにするか、歴史研究所の施設をどこの地域へ移転するか、教育委員会だけでなく、市全体で考えていくようにしなくてはいけないと考えています。多くの皆さんと協力して考えていけたらいいなと思います。

ワークショップ

昔の「声」を聞いてみよう ～上郷有線放送の番組から～（仮称）

私たちが情報を得たり、他の人と意思疎通したりする手段であるメディア。それがどう変わってきたかを知ることが、歴史として興味深いだけでなく、これからの地域を考える上でも重要です。1950 年代の農村部では有線放送が広がりました。有線放送は通話だけでなく、地域の出来事を放送で伝えたり、独自の番組を作るなど多面的な機能を持っていました。今回の企画では三六災害 (1961 年) の一周年で作成された記念番組を視聴し、昔の声に耳を傾けたいと思います。被災から間もない時期、地域の人は何を語っていたのでしょうか？

講演 安岡 健一さん (大阪大学 大学院人文学研究科 准教授)
「地域メディアが作る「わたしたち」の歴史」

企画 上郷有線放送番組再生・視聴

日時 7 月 20 日 (土) 13:00～16:00 **会場** 上郷公民館 201 講堂

共催：JSPS 科学研究費助成事業基盤研究 (B)「戦後日本の「農村メディア」と地域社会の総合的研究」(代表：安岡健一)

美味しいリンゴを収穫するには？～地方博物館の現状と課題～

千葉 拓真(鳥取市歴史博物館／歴史研究所調査研究員)

令和4年に「博物館法の一部を改正する法律」が成立し、約70年ぶりとなる博物館法の単独改正が行われた。そこでは博物館の設置主体が見直され、博物館には社会教育法に加えて文化芸術基本法に基づく活動や、施設どうしの連携、観光やまちづくりに寄与することが求められるなど、新時代の博物館の在り方が示されている。近年、博物館の機能は多様化・高度化しており、それを反映した内容になっているといえるが、多くの博物館では予算や人員が限られる中で従来の調査研究や、展示などの教育普及活動をこなし、しかも観光やまちづくり、社会教育など、実に多様で高度な活動を求められる。しかし多くの館では正規採用の学芸員は少なく、場合によっては学芸員が1人しかいないこともあり、人手不足は否めない。それは博物館だけでなく、文書館や図書館、飯田市歴史研究所などの施設も同様だろう。しかし肥大化する役割に反比例するように、予算や人員が削減されるケースは珍しくない。なかには調査研究などを軽視するような向きさえある。そもそも博物館の根幹的な機能は、資料の収集・保存と調査研究であり、教育普及活動や観光・まちづくりへの寄与などは、その成果を社会に還元するという位置付けだ。だが近年はあらゆる分野で成果の還元が過剰に求められる嫌いがある。例えばリンゴが欲しいのに、苗を植え、それを育てる作業を疎かにしては、肝心のリンゴは手に入らない。本末転倒である。博物館活動において、資料の収集・保存は、種や苗を用意する作業、調査研究はその苗や種から樹を育てる作業であり、人員や予算の補充は肥料である。これらをしっかりとすることでリンゴの樹は育ち、それを経て、はじめてリンゴを収穫、つまり展示や普及活動、観光やまちづくりへの貢献などが可能になる。博物館に多様で高度な役割を求める前に、まずは成果を得るにはどうすれば良いか、そのために今何が必要なのか、基本に立ち返って議論すべきではないだろうか。

第21回飯田市地域史研究集会を開催します

今年度の地域史研究集会では、7世紀後半～10世紀前半に伊那郡の役所(伊那郡衙)が営まれた国指定史跡「恒川官衙遺跡」を取り上げます。文献史学・建築史学・考古学といった多様な視角から伊那郡衙や古代の下伊那の姿を考えます。1日目は講演と報告を、2日目は現地見学を行います。詳細は次号でご案内します。

日 程

9月7日(土)・8日(日)

会 場

飯田市役所

※2日目は現地見学会

【講演】

田島 公さん (元東京大学教授／歴史研究所顧問研究員)
海野 聡さん (東京大学)

【報告】

羽生 俊郎さん (飯田市教育委員会)
田口 博人さん (座光寺 歴史に学び地域をたずねる会)

日本古代の牧と馬

講師

やまぐち ひでお

山口 英男 さん

(元東京大学史料編纂所教授)

日時

6月22日(土)

第1講 13:30~15:00 馬の飼育と牧の役割—古代の牧の実態—

第2講 15:15~16:45 奈良・平安時代の牧の制度と変遷

6月23日(日)

第3講 9:00~10:30 御牧と駒牽の歴史的意味

第4講 10:45~12:15 信濃の牧・伊那谷の牧

講師より

日本古代史の分野では、馬を生産・育成する牧をめぐる研究がここ30年ほどで大きく進展しました。牧の遺跡の調査が各地で行われるようになり、近年では自然科学的な同位体分析の手法を用いて、信濃・甲斐・上野を含む東日本内陸部を産地とする馬が宮都（藤原京）で利用されていたことを明らかにする成果も公表されています。文献史料に基づいた古代の牧と馬に関する理解が進んだことが、研究の深化の基盤となりました。古代の牧がどのような形で存在し、馬の生産・飼育・供給を行っていたのか。そのことが、日本の歴史、地域の歴史を知る上でどのような意味を持つのか。信濃や伊那谷に関わる話題も取り上げながらわかりやすくお話ししたいと思います。

会場

飯田市役所C棟 3階会議室

資料代

500円 ※高校生以下無料

申込み

電話・FAX・メール、のいずれかで①講座名 ②受講方法（会場での受講または、自宅等でのオンライン受講）③電話番号 ※オンライン受講は、郵便番号と住所をお知らせください。

締切

会場：6月20日（木）、オンライン：6月8日（土）

◇ 飯田アカデミアとは歴史学における第一線の研究者に、最新の研究をわかりやすく紹介していただくものです。

定例研究会

※聴講をご希望の方はお電話ください

▶近代製糸業における山林労働者編成—王子製紙遠山進出を事例として—

報告者 太田 仙一（調査研究員）

時間 14:00~16:00

開催日 6月15日(土)

会場 歴史研究所 研修室

受講生
募集中!!

歴研ゼミ&ワークショップ6月・7月の予定

会場：歴史研究所 研修室

近世史ゼミ

担当：羽田 真也（研究員）

6月12日・26日／7月10日・24日
（第2・第4水曜日）18:30~20:30

建築史ゼミ

担当：岩田 会津（研究員）

6月21日・7月19日
（第3金曜日）18:30~20:30

地域史ゼミ

担当：伊藤 悠（研究員）

6月14日・28日／7月12日・26日
（第2・第4金曜日）18:30~20:30

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

6月5日・19日／7月3日・17日
（第1・第3水曜日）19:00~21:00

満洲移民研究ゼミ

担当：本島 和人（調査研究員）

第149回 6月8日／第150回 7月6日
（第1土曜日）10:00~11:40
※6月は第2土曜日の開催です。

近現代史ゼミ

担当：田中 雅孝（調査研究員）

6月29日・7月27日
（第4土曜日）10:00~11:40
※6月は第5土曜日の開催です。

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670

開所時間：午前9時～午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日
メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: iihr@city.iida.nagano.jp まで